

基本計画策定に向けての課題整理

項目	課題	対応	関連する基本計画	基本方針との対応										
				方針 1	方針 2	方針 3	方針 4							
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を代表する生物であるオカヤドカリ類及び鳥類の生育基盤として、計画対象地を一体的な場と捉え整備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地全体で創出する環境をゾーニングする。 	場の配置計画	○	○									
	<ul style="list-style-type: none"> ・創出する環境は「淡水池」、「森林」、「ガレ場」とする。 													
	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の生息を妨げないような動線、また利用者が動きやすいような動線を整備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オカヤドカリ類、鳥類の生息を妨げないような動線を検討する。 ・環境学習センター側の管理用ゲートから出入りすることを基本に、利用者の動きをコントロールしやすいような動線、各ゾーンの移動がスムーズになるような動線を検討する。 	動線計画		○	○								
	<ul style="list-style-type: none"> ・天敵（野ネコ、野犬）に対して、対応策を検討する必要がある。 													
	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場やトイレを敷地内に設けるか、あるいは隣接する人工ビーチと共用するか、検討する必要がある。 								<ul style="list-style-type: none"> ・敷地境界にフェンスを張り巡らせることで対応する。 	施設計画	○			
	<ul style="list-style-type: none"> ・有毒植物（オキナワキョウチクトウ等）の取り扱いについて、学習用に植栽すべきか、あるいは危険回避のために植栽しないでおくべきか、検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場は隣接する人工ビーチと共同で利用することを想定している。 ・トイレは環境学習センター内に設置、または隣接することで対応する。 	施設計画 植栽計画			○								
<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜～水域には礫や岩などを配置し、自然環境に近い景観を創出する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの自然護岸をイメージした自然な人工海浜を創出する。 ・オカヤドカリ類の生息に配慮した断面構造(砂浜の傾斜、砂の量、岩の配置等)にする。 ・海域から陸域への自然な連続性を持たせる。緩やかな傾斜で適度な幅をもつ砂浜を整備し、大小の岩を配置する。 								場の配置計画	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> ・オカヤドカリ類の生息に配慮した構造にする。 														
<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸の植生はオカヤドカリ類の生息に配慮した樹種を導入する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針の植生断面図及び樹種リストをもとに、海域から陸域への自然な連続性を保つように配慮し、樹種を配置する。 	植栽計画	○	○									
<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸域から野鳥園への連続性を保ち、互いにネットワークが形成できる環境（植生断面）を創出する必要がある。 														
<ul style="list-style-type: none"> ・生物が生息しやすい場、学習に利用できる場を創出する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用」と「環境」が両立する共存空間を創出する。 	場の配置計画 植栽計画				○								

項目	課題	対応	関連する基本計画	基本方針との対応			
				方針1	方針2	方針3	方針4
森林	・沿岸域から野鳥園内部への連続性を保ち、互いにネットワークが形成できる環境（植生断面）を創出する必要がある。	・基本方針の植生断面図及び樹種リストをもとに、海域から陸域への自然な連続性を保つように配慮し、樹種を配置する。	植栽計画		○		
	・利用者が鳥類や植物について、学習できるように整備する必要がある。	・鳥類や植物の名称、植生の断面等を観察・学習できるように看板・園路を整備する。	動線計画 施設計画			○	
	・雑草の繁茂、台風による倒木等が想定される。	・維持管理がしやすいように管理用道路を整備する。	動線計画				○
淡水池	・将来的には、水質の悪化が懸念される。	・水は雨水利用を考慮しており、当面は水質悪化の懸念はないと考えている。長期的には、富栄養化により水質悪化が懸念されるため、水質の管理については維持管理・運営に係る提言として記載する。	維持管理・運営に係る提言				○
	・海沿いに整備されるため、波浪の影響が考えられる。	・計画地の地盤高は海面に対して相当程度高いため、越波などによる計画地内への直接の影響は小さいと考えられるが、植栽を適切に配置するなどして影響の低減に努める。	植栽計画		○		
	・池及びその周辺に集まる鳥類について、利用者が学習できるようにする必要がある。	・鳥類の観察施設や看板を設置する。	施設計画			○	
	・水量の確保、水深や水際部の環境について、工夫する必要がある。	・確保可能水量を考慮し、水深の多様性や水際部（ヨシ帯）の創出に配慮した池の形状を検討する。	場の配置計画	○			○
ガレ場	・鳥類が利用しやすいように工夫する必要がある。	・コアジサシ等の産卵場として活用できるように、工夫（サンゴ礫等の撒き出し等）する。	場の配置計画	○			
	・ガレ場に集まる鳥類について、利用者が学習できるようにする必要がある。	・鳥類の観察施設や看板を設置する。	施設計画			○	